

上越市立教育センター

239号

所報

令和4年3月4日発行

発行：上越市大字下門前 1770 番地
上越市立教育センター
所長 竹内 学
E-mail jecenter@jorne.or.jp
URL <http://www.jecenter.jorne.ed.jp>



主体的に学習する子どもを育てる



学力向上は、上越市の学校教育における最重要課題です。各学校においては、全国学力・学習状況調査の調査結果及び標準学力検査（NRT）の結果を踏まえ、児童生徒一人一人の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて計画的に取り組むことをお願いしています。

一律の施策も大切ですが、実態に合った最適な取組にするには、各学校の主体性に期待するところが大きくなります。自校の学力実態を分析し、教員相互に学び合うことが大切です。

「児童生徒が乗ってこない」、「どうしても私は説明する時間が長くなる」など、授業での悩みは、大なり小なり全ての教員が抱えていると思います。学年部会や打合せで授業についての悩みを話し合ったり、「1日15分は授業の話をする」ことを目標に掲げたりするなど、日常的に授業を話題にできる雰囲気づくりをしていくことが大切です。

新潟県学力向上サポートたより No.3『「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくり』から
(抜粋)

ここで大切なことは、学習者視点です。学校は学習者である子どもたちの学ぶ環境を整え、学習者が知識や技能を確実に習得し、その活用を通して思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育成していきます。「主体的・対話的で深い学び」や、「個別最適な学び」、「協働的な学び」というのは、学習者の主体性を発揮するための私たち教員の教育観、授業観と言ってもよいかもしれません。授業をする教員が、目の前の子どもにどう向き合うかが問われています。

上越市における令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果は、対象の小学6年生の国語、算数、中学3年生の国語、数学の全てで国や県の平均を下回りました。これらの調査は、子どもの学習状況を量る上で重要であると同時に、学校評価にもつながることから、子どもや保護者、市民の大きな関心事です。4月には、再び調査が行われます。年度末の忙しい時期ですが、これまでの取組の効果が上がるように、丁寧に振り返りを行い、子どもが自信をもって新年度を迎えられるように指導をお願いします。学習者の主体性を引き出し、しっかりと結果を出すことのできる教員集団であってほしいと願っています。

(担当 学校教育課副課長 牧井)

「所報」は、教育センターのホームページでも公開しています。ご覧ください。

事例で
見る

通常学級に在籍する「支援を要する児童生徒」と 「学級全体」への対応について

支援を要する児童生徒への対応は、児童生徒本人の特性はもちろん、適切に行動することができない要因を考えて支援を探ることが大切です。対象児童生徒だけでなく、学級全体への対応も含めて、事例を通して紹介します。

1 対象児童生徒の行動の理由

支援を要する児童生徒の
気になる行動



授業中に離席や立ち歩き、
大声で叫ぶ。

- ・じっとしていられないストレスの発散？
- ・まわりから注目してほしい？
- ・そもそも学習内容が分からない？
- ・助けを求める方法が分からない？
- ・前の時間にトラブルか何かあった？
- ・勉強ができないことをごまかしたい？
- ・心配や悩み事があるって取り組めない？



対象児童生徒がなぜそのような
行動をするのか理由を考える。

きっかけは学力？ 特性？ 承認欲求？ 社会スキルの未学習？ 自己コントロール？ いろいろ考えられるね！

2 行動の背景にある要因



学習の未定着
によるもの



ADHD、LDなど
特性によるもの



心配や悩み事など
によるもの



見えにくい聞きにくいな
ど教室環境によるもの



虐待など家庭環境
によるもの



ちょっと前に起きた
ことによるもの



周囲との人間関係
によるもの



背景にある要因は、本人・学校・家庭といろいろありそうだね！

3 対象児童生徒への対応

(1) 対象児童生徒への支援

① 学習への支援

九九表や漢字のルビ、作文の型などで「これなら出来る」手がかりの提供

×	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

ふんしやう
文章を書く

おわり
三行で感想や今後のことを書く

なか②
ソレで二つ目のエピソードを書く

なか①
ソレで一つ目のエピソードを書く

はじめ
三行で書くことの紹介をする

作文の型

課題量や内容の調整、「見た目」の課題量の軽減による意欲喚起



「ドリルの①から⑩まで出来たら、持ってきてね」(量の調整)
 「漢字はまず、『読み』だけやってみよう」(内容の調整)
 「プリントを半分に折って上半分をやろう」(見た目の軽減)

特別支援学級による弾力的運用、教育補助員による取り出し指導



学習補充や基礎の定着だけでなく、『次の単元の予習』を行い、通常学級での授業への参加や活躍を促す。

(例：デイジー教科書で音読を聞く、リコーダーの練習、Eテレの動画で歴史の知識を先取りするなど)

② 悩み事や人間関係への支援



「大声出したけど、何かあったの？(理由を尋ねる)
 「さっきいやなことがあったからだよ」(共感する)
 「いつもそんなことしないのに、どうしたの？」(変化に気付く)

「行動自体はよくないが、あなた自身は悪くない」という教師の思いを伝える言葉がけをして、信頼関係を築く。

(2) 対象児童生徒を含めた学級全体に向けた支援

ICT機器による視覚支援



注目や課題把握、情報共有のしやすさで授業に参加しやすくなる。

合理的発散の場の設定



立ち音読、フラッシュカードの読み上げ等、動作や声出しの発散で落ち着きやすくなる。

タブレットによる個別対応



漢字や計算の反復練習、早く課題が終わったときの自学など、個に応じた学習させる。

(3) 虐待や障害など、学校と家庭だけでは解決できない場合



情報や判断材料を収集して、市教委や福祉、医療機関などと連携していく。

支援の引き出しを増やしていくことが、対象児童生徒の学習参加につながるんだね！



4 学級全体への対応

「どんなときでも集中しているみなさん、さすがですね！」(承認する)
 「〇〇さんを責めたりしないで、みんなありがとう」(感謝する)
 「(学級全体に視線を送ってから) 聞くスイッチを入れていますね」(称賛する)



- ・学級全体へは、まじめに取り組んでいる児童生徒たちを満たして維持する、支援を要する児童生徒への理解と協力を得る、という2本柱の対応をする。
- ・対象児童生徒にはばかりかかわっていると、まじめに取り組んでいる児童生徒たちが満たされないことも考えられるので配慮する。
- ・学級全体に視線を送ることで、児童生徒に「先生は見ている」「ちゃんと分かってくれている」と感じさせ、維持につなげる。

学級全体への対応をすることは、支援を要する児童生徒のためでもあるんだね！



支援を要する児童生徒の対応は、まず「行動の分析」や「背景にある要因」を探りましょう。また、対象児童生徒だけでなく、学級全体への対応もお願いします。校内対応で行き詰まったときは、巡回相談をご活用ください。詳しくは、学校教育課 山崎までお問い合わせください。

(担当 学校教育課指導主事 山崎)



令和3年度 冬期カウンセリング研修

冬期カウンセリング研修にたくさんの方から参加していただきました。
参加者の感想を紹介します。

12月27日(月) 「生徒指導研修」 教育活動に役立つ認知行動療法

講師：上越教育大学大学院 准教授 田中 圭介 様

- ◇認知行動療法について講義だけでなくグループワークで意見を共有して進めることができたので、理解が深まりやすかったです。すぐに自分の意識を変えられる部分として、子どもの行動の癖を考えたり、行動を起こすまでの過程に注目したりすることからしていこうと思います。
- ◇気になる行動をするお子さんについて「どんな時にその行動をとるのか記録しておこう」と思いながら記録が不十分になっていました。今回の研修で、行動分析の有効性を改めて確認し、今後しっかり実践していかなくてはと思いました。また、教師側の主観で捉えないようにすること、スモールステップで目標を立てることなどに気を付けようと思いました。

12月28日(火) 「生徒指導研修」 不登校の予防と支援の実際

～ 問題の形成要因と維持要因 ～

講師：東京学芸大学教職大学院 教授 小林 正幸 様

- ◇「不登校を未然に防ぐ」を曖昧に捉えていたことがよく分かりました。これまで何となく「欠席が多い子」「不調を訴えて保健室へよく行く子」は心配だなと感じていましたが、これからはその裏にある思いに目を向けて対応していける体制をつくりたいと思います。学んだことを生かし、増加が予想されている不登校への対応力を学校組織として高めることも考えていこうと思います。
- ◇講師の方から随時参加者の皆さんの意見や質問をチャットで提示していただき、課題意識や質問を共有できたので、自分と同じような悩みや困り感をもっていることが分かりました。また、子どもや保護者にかかる具体的な言葉やその理由を教えていただき、大変勉強になりました。

1月 5日(水) 「特別支援教育研修」 通常の学級における特別支援教育

～ 事例を通して学ぶ 発達が気になる子への指導と支援 ～

講師：上越教育大学大学院 准教授 関原 真紀 様

- ◇事例を通して、具体的な指導や支援の仕方を学ぶことができました。問題行動を減らすための予防的対応や問題行動の代替行動等について大変勉強になりました。
- ◇実態把握をきちんと行い、見えている行動の背景を考えて支援することの重要性を再認識し、演習で他の先生方からお聞きした予防的対応や代替行動のアイデアを今後生かしていこうと思いました。また、自分の授業の改善と、子どもたちとの関係づくりを大切にし、今の学級の子どもたちと良い時間を過ごしていき、一つでも多くの良い点を見付け褒めていきたいと思いました。

令和4年度カウンセリング研修予定 (2月末現在)

8月 1日 (月)	教育相談・生徒指導	文教大学	教 授	会沢 信彦 様
8月 2日 (火)	特別支援教育	星槎大学大学院	教 授	阿部 利彦 様
8月 3日 (水)	愛着障害	和歌山大学	教 授	米澤 好史 様
12月26日 (月)	生徒指導	上越教育大学大学院	准教授	田中 圭介 様
12月27日 (火)	特別支援教育	新潟大学教職大学院	教 授	長澤 正樹 様
12月28日 (水)	不登校	東京学芸大学教職大学院	教 授	小林 正幸 様

